

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

1 工場概要

- ▶ 住所 : 愛知県小牧市大字東田中字西田100番地1
- ▶ 従業員数 : 138名 (2013年4月時点)
(内協力会社42名)
- ▶ 敷地面積 : 25,767m²



2 事業概要

- ▶ 事業内容
 - ・プラスチック製品の製造加工ならびに販売
 - ・管工事の請負施工に関する業務
 - ・上記に付帯する一切の業務
- ▶ 主要製品 本社工場
 - ・各種硬質塩化ビニル管
 - ・下水道用硬質塩化ビニル管
 - ・水道用ポリエチレン二層管
 - ・下水道推進工法用硬質塩化ビニル管
 - ・硬質塩化ビニル管用継手
 - ・ABS、PP、塩ビ等コアパイプ



3 工場変遷

- | | |
|-------------|---|
| 昭和27年11月26日 | 名古屋市に会社設立。軟質塩化ビニルシート、硬質塩化ビニル管用コンパウンド、各種押出成形品の製造販売を開始。 |
| 昭和31年 8月 | 硬質塩化ビニル管製造販売を開始。 |
| 昭和36年10月 | 本社及び工場を小牧市に移転。 |
| 昭和39年 7月 | 硬質塩化ビニルシートの製造販売を開始。 |
| 昭和56年 4月 | ポリエチレン管の製造販売を開始。 |
| 平成 2年10月 | 岐阜県美濃市に工場建設し、シートの生産を本社から移設して生産開始。 |
| 平成10年12月 | ISO9002審査登録 |
| 平成12年10月 | ISO14001審査登録 |
| 平成14年12月 | ISO9001:2000移行認証取得 |
| 平成17年 5月 | ABS製コアパイプ(巻き芯)の製造販売を開始。 |
| 平成17年 7月 | ISO14001:2004移行認証取得 |
| 平成21年 7月 | ISO9001:2008移行認証取得 |

4 環境方針

▶ ISO環境方針

日本プラスチック工業株式会社本社、本社工場及び美濃工場は、地球環境保全が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保全に万全の配慮と不断の努力を行います。

- 1) 硬質塩化ビニル管及び2次加工品の製造、ポリエチレン等のプラスチック管の製造、ポリスチレン・ポリエチレン等のプラスチックシート及びプレートの製造における生産活動で、環境マネジメントシステムを構築し、継続的維持、改善及び汚染の予防を図り、以下の環境保全に努めます。
 - ① 廃棄物のリサイクル化及び減量化を推進します。
 - ② 設備や機器の高効率化と生産プロセスの改善により電力等の省エネルギーを推進します。
 - ③ 技術的、経済的に可能な範囲で騒音レベルの改善及び水質汚濁防止を推進します。上記の環境目的及び目標を定めると共に、それらの達成のため環境マネジメントプログラムを作成し、その推進に当社で働く全ての人が一丸となって努力します。
- 2) 環境関連法、条例及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。
- 3) 地域との調和を図ると共に、地域の環境保全活動に積極的に参加します。
 - ・この環境方針は、教育及び啓蒙活動を行い、当社で働く全ての人に周知徹底を図ります。
 - ・この環境方針は、一般の人でも入手できます。

平成25年4月1日
日本プラスチック工業株式会社
代表取締役社長
住田和正

▶ ISO認証取得状況

- | | |
|----------|---|
| 平成12年10月 | ISO14001(財)日本規格協会に審査登録(JSAE276) |
| 平成13年10月 | ISO14001第1回定期維持審査実施 |
| 平成14年10月 | ISO14001第2回定期維持審査実施 |
| 平成15年 9月 | ISO14001第1回更新審査実施 |
| 平成16年 7月 | ISO9001第2回更新審査、ISO14001第1回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成17年 7月 | ISO9001第2回-1定期維持審査、ISO14001第1回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成18年 7月 | ISO9001第2回-2定期維持審査、ISO14001第2回更新審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成19年 7月 | ISO9001第3回更新審査、ISO14001第2回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成20年 7月 | ISO9001第3回-1定期維持審査、ISO14001第2回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成21年 7月 | ISO9001第4回更新審査、ISO14001第3回更新審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成22年 7月 | ISO9001第4回-1定期維持審査、ISO14001第3回-1定期維持審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成23年 7月 | ISO9001第4回-2定期維持審査、ISO14001第3回-2定期維持審査(Q/E複合審査)実施 |
| 平成24年 7月 | ISO9001第5回更新審査、ISO14001第4回更新審査(Q/E複合審査)実施 |

5 環境保全中期計画 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2012年度			
				目標	実績	自己評価	目標未達の理由
地球温暖化防止	CO ₂ の削減	CO ₂ 排出原単位	2008	▲10%	9.3%	×	生産量の増加に比べ生産金額が伸び悩んだため
		CO ₂ 排出量	2008	▲10%	18.2%	×	生産量増加のため
	物流のCO ₂ 削減	CO ₂ 排出原単位	2008	▲4%	▲15%	◎	
循環型社会の形成	廃棄物の削減	排出原単位	2008	▲8%	▲15%	◎	
	ゼロ・エミッション	埋立比率	—	0.5%以下	0.6%	×	目標達成にむけて、分別管理の徹底に取り組んでいます
	水資源の節約	水使用量原単位	2008	▲4%	30.6%	×	夏場の製品冷却用に水量を増加させたため
有害化学物質の削減	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位	2008	▲8%	▲29%	◎	

※自己評価の基準 ◎:目標超過達成 ○:目標達成 ×:目標未達成

注)環境保全中期計画のCO₂排出量実績値の算定の際は、2008年度のCO₂排出係数を使用しています。

6 環境会計

① 環境投資

2012年度: 284 万円

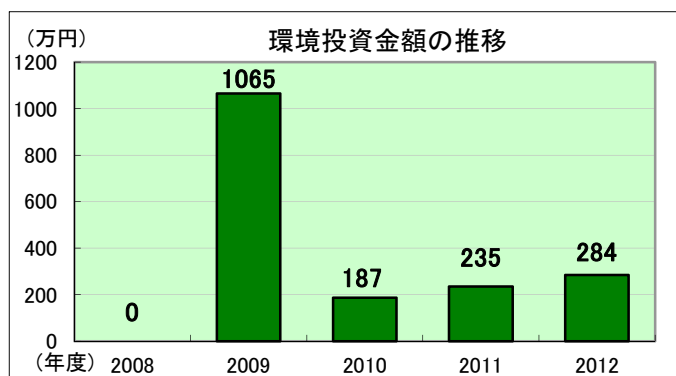
2008年度の環境関連投資はありませんでした。

2009年度は、省エネ型コンプレッサーに更新、押出機用真空ポンプ入替(電気容量ダウン等)生産ラインの塩ビ用粉砕機入替(電気容量ダウン)、粉砕場防音壁設置などを実施しました。

2010年度は、生産ラインの塩ビ切粉用粉砕機入替(電気容量ダウン等)を実施しました。

2011年度は、省エネのためにシャッターの取り付けを実施しました。

2012年度は、省エネのため工場入口にシャッター取り付けを実施しました。



日本プラスチック工業株式会社 本社工場

② 環境保全効果

2012年度は、前年度より生産量が増加し、エネルギー使用量、廃棄物排出量とも増加しました。

効果の内容	効果	2011年度	2012年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)※	109,149	116,945	7,796	107.1%
	水使用量(m ³)	141,570	171,350	29,780	121.0%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)※1	5,368	5,680	312	105.8%
	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	NO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	ばいじん排出量(t)	—	—	—	—
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	0.009	0.009	0.001	107.2%
	廃棄物排出量(t)	21.1	22.6	1.5	106.9%
	廃棄物埋立量(t)	2.2	2.0	▲ 0.1	93.3%

※1:車両燃料分を含んでいません。

③ 経済効果

2012年度: 2,242 万円

2008年度(平成20年)廃油(機械油)、段ボール・雑誌類の有価物化を開始しました。

2009年度(平成21年度)PPバンド、PEビニールの有価物化を開始しました。

2009年度(平成21年度)省エネ型設備への更新、モータ容量ダウンを行いました。

2010年度(平成22年度)前年度同様、省エネ型設備への更新及びモータ容量ダウンを行いました。

2011年度(平成23年度)省エネ型照明への更新を行いました。

2012年度(平成24年度)省エネ効果のある高効率トランスへの変更を行いました。

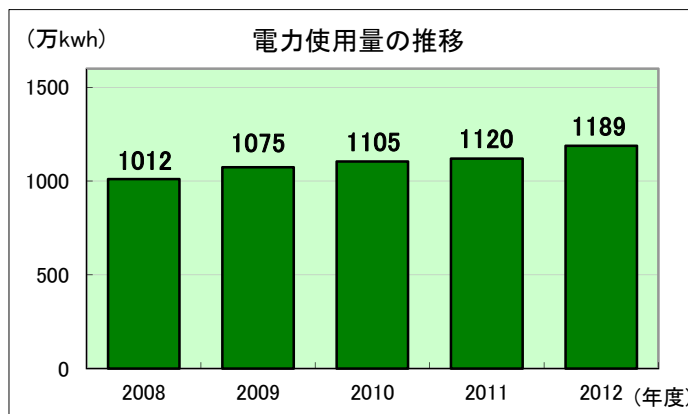
分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・押出機用真空ポンプ入替えによるモータ容量ダウン効果 ・冷却水用ポンプ容量ダウンによる電力削減 ・切粉用粉碎機変更によるモータ容量ダウン効果 ・押出機更新によるモータ容量ダウン効果 ・工場のトランスを高効率トランスへ変更、その他 	1795 万円
ゼロ・エミッション化対策	廃棄物の有価物化	447 万円
合計		2242 万円

7 環境パフォーマンス

① 地球温暖化の防止

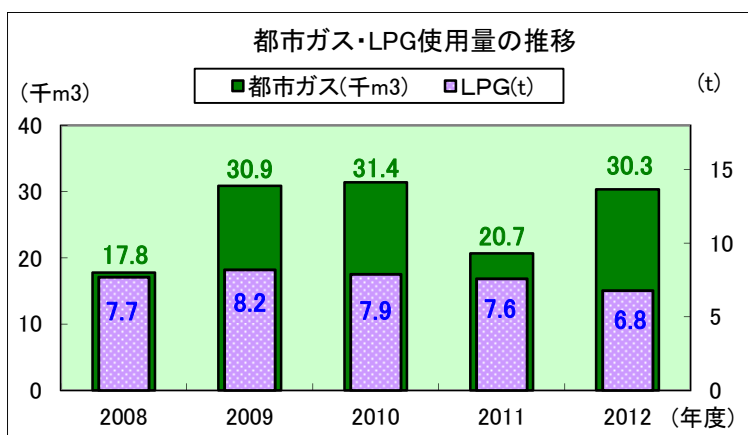
省エネルギー活動 電力使用量の削減

2009年度以降生産量が増加し、2008年度に比べて電気使用量が増加しています。



都市ガス・LPG使用量の削減

2012年度は都市ガスの使用量が増加しました。

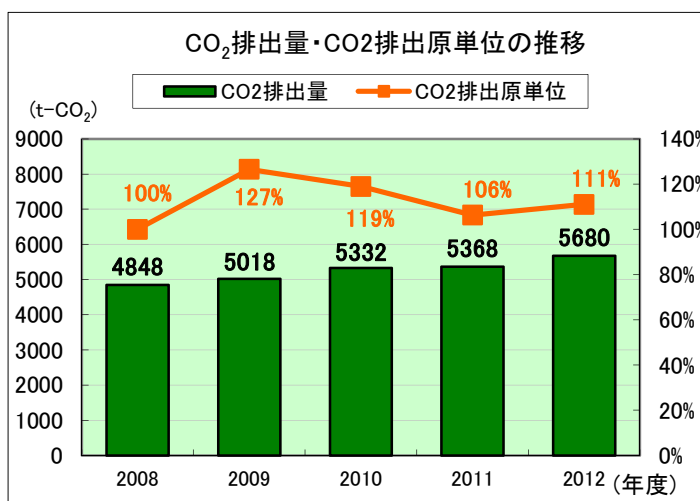


CO₂排出量の削減

※ 2012年度の目標値は、2010年度を基準として、原単位で1%削減することとしています。

2009年度以降生産量が増加し、電気使用量の増加に伴い、CO₂排出量も増加しています。

CO₂排出原単位は、省エネ対策等で2009年度以降改善していましたが、2012年度は電気のCO₂排出係数増加により悪化しました。



* CO₂原単位2008年度比:
2008年度の生産金額ベースのCO₂原単位を100とした場合の指数

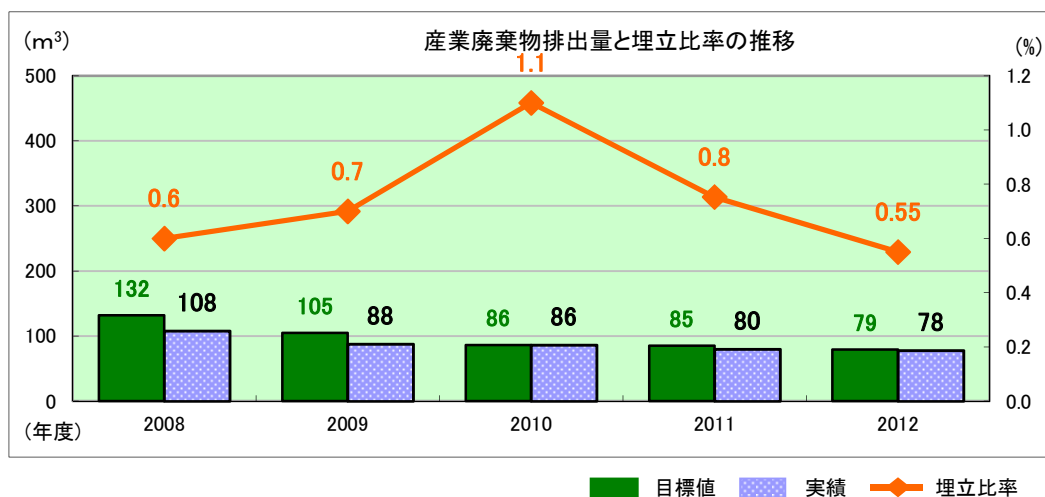
※車両燃料からの排出量を含んでいません。

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

② 循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

2005年度より塩ビパイプ屑の有価物化を実施しており、年々減少傾向にあります。廃プラスチックの埋立量の削減に取り組んでいます。



注:埋立比率(%)=(直接埋立量+中間処理後最終埋立量)÷(有価物量+廃棄物排出量)

ゼロ・エミッション化

2005年度からリサイクル率95%以上を目標に取り組んでおります。

	2008	2009	2010	2011	2012
目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
実績	96.2	97.3	97.5	97.9	97.9
達成率(%)	101.3	102.4	102.6	103.1	103.1

環境 TOPICS

環境関連活動

- 産業廃棄物削減:廃棄物の分別化、社内スクラップの再利用及び有価物化の推進、一般廃棄物の有価物化。
- 省エネ活動:押出設備の吐出量アップ対策、モータの容量ダウン、照明のLED化、高効率トランスの採用。
- 騒音・振動規制:工場周りの騒音・振動測定(2か月に1回)の実施。
- 水質関連:工場排水、井戸水の環境測定(年1回)の実施。

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

③ 有害化学物質の削減

PRTR法対象物質の排出量・移動量

本社工場

(kg)

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
305	鉛化合物	3.5	—	—	—	—	5.8

8 環境コミュニケーション

① 地域の皆様との交流

本社工場

名称 東田中地区盆踊りに参加および寄付

日付 平成24年8月

名称 東田中地区秋祭りに参加および寄付

日付 平成24年10月

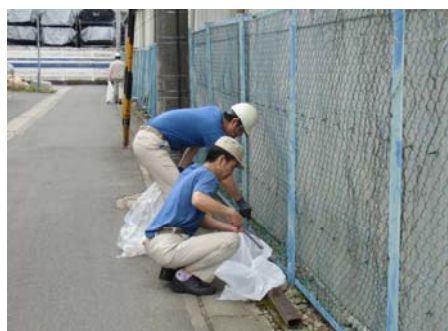
② 地域美化活動

本社工場

名称 環境月間本社工場周辺清掃活動

日付 平成24年6月13日

参加人数 27名



名称 小牧市「ごみ散乱防止市民行動の日 & 小牧まち美化ウォーク」
小牧市民会館周辺清掃活動

日付 平成24年10月6日

参加人数 2名



名称 年末本社工場周辺清掃活動

日付 平成24年12月28日

参加人数 19名



日本プラスチック工業株式会社 本社工場

9 サイトデータ～本社・本社工場

▶ INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	3,017
水使用量	万m ³	17.1

※車両燃料を含んでいます

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	6,298
---------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—			
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値	
	SO _x	総量規制・ K値規制ともにm ³ N/h	ばい煙発生施設なし			
	NO _x	総量規制:m ³ N/h, 濃度規制:ppm				
ばいじん	g/m ³ N					

排水量	公共用水域	万m ³	17.1
	下水道	万m ³	—
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

2012年 6月27日実施

排水	放流先	項目	単位	排水口名:パイプ工場		排水口名:加工工場	
				規制値	測定値	規制値	測定値
				公共用水域	pH	—	5.8~8.6
BOD	mg/l	160	0.4		160	1.6	
COD	mg/l	160	<0.5		160	1	
SS	mg/l	200	1		200	2	
N-ヘキサシアン	mg/l	5	<1		5	<1	
鉛及びその化合物	mg/l	0.1	<0.02		0.1	—	
亜鉛	mg/l	2.0	0.01		2.0	—	
COD総量規制値	kg/日	—	—		—	—	
窒素総量規制値	kg/日	—	—		—	—	
りん総量規制値	kg/日	—	—		—	—	
下水道	pH	—	—	—	—	—	
	BOD	mg/l	—	—	—	—	
	COD	mg/l	—	—	—	—	
	SS	mg/l	—	—	—	—	

廃棄物排出量	t	22.6
埋立比率	%	0.55